

# 共育

3月号



教育対象者4名の一大イベントとも言えるケーススタディ発表も先月無事に終わることが出来ました。8月から始まったケースもようやく終え、肩の荷が下りた頃だと思います。4名の内3名は初めてのケースでしたが緊張をしながらも温かい眼差しの元、発表することが出来ました。お忙しい中参加して頂きありがとうございました。またケース発表に伴い、プリセプターはじめ病棟看護師にはたくさんのご指導・ご協力に深く感謝致します。

大腸癌手術後の患者の食事指導を通して学んだこと  
～患者のセルフケア確立に向けた病棟看護師の役割～  
3階病棟 山本愛衣

①ケーススタディを終えて  
大変でしたが勉強になりました。周りの協力を感謝です。

②来年度に向けての抱負  
この1年学んだこと、また、まだわかっていないところを学び生かせるようにしたいです。



終末期患者のQOLに対する病棟看護師の役割  
～掻痒感を強く訴える患者の通して学んだこと～  
3階病棟 大貫耕平

①とても勉強になりました。  
患者・家族と関わることの重要性を深く感じました。

②病棟も変わりますが、何事にも挑戦するつもりで頑張ります。

退院支援の調整に向けた病棟看護師の役割  
～ストマ保有高齢者の排泄自立支援に向けての学び～  
5階病棟 安藤真理子

①ケースを通して一人の患者と向き合い、情報収集をし、アセスメントを行い、方向性を考え計画し、関わっていくという流れを改めて学ぶことが出来ました。また、関わりの中でチームメンバーRH、Dr、家族、支援科等たくさんの方と協力することの大切さも学ぶことが出来ました。看護師としての経験を積めたことに深く感謝しています。ありがとうございました。

②来年度関わらせて頂く患者さんはどんな方なのか？期待と不安はありますが、これもまた経験を1つ積み重ねられると考えると全てが学びとなると考えています。自分の成長のため、また沢山の方に協力を得ながら学びを深めていきたいです。日頃の関わりも意識して努力していきます。

ケース発表会を支えてくれたプロジェクトのメンバー  
司会者 伊藤裕子さん  
タイムキーパー 宮澤千枝子さん  
テーマ作成 東智恵子さん  
ポスター写真 金城光世さん

宣伝ポスターの制作や当日も教育対象者の緊張がほぐれるよう和やかに進行をして頂きました！



高齢者の日常生活動作とQOLの関係  
～骨折を繰り返す患者の退院支援を通して学んだこと～  
4階病棟 川畑玲望

①1年目と比べると看護師としての援助や患者の関わりの違いに気づき少し成長出来たのかなと感じました。パンフレットづくりでは指導のもと完成させ渡した時には患者・家族の笑顔を見て、頑張ったよかったです。

②あっという間の3年間でした。ケースを受け持つことで日々の業務や関わりが濃厚になり、新たな発見や気づきにつながり学生時の実習時のようなフレッシュな気持ちになります。その気持ちを忘れずにしていこうと思います。



2月24日ケース発表会を開催しました。当日参加者は過去最高の36名となり、賑やかに質疑応答も飛び交いました。アンケート結果も好評で参加していただいた中には、学生時代から知っていることもあり成長を感じられたとの意見もいただきました。日々忙しい業務と並行しながら、研究に取り組みケースを通して、個々で得た学びや感動を元にさらなるレベルアップに期待したいと思います。また来年も各部署の皆様にはご指導・ご協力よろしくおねがいします。1年間ありがとうございました。看護教育委員会一同

